

# 関西医科大学 広報



写真はイメージです

「医療法人柏友会 柏友会楠葉病院」は「関西医科大学くずは病院」に生まれ変わりました。

## 新しい年を、新しい仲間とともに。

Vol.40

### CONTENTS

法人：理事長年頭所感、賀詞交換会

P.1～

大学：静岡県地域枠新設

P.12

法人：関西医科大学くずは病院開院

P.8

大学：第1回学術祭

P.13

法人：看護学部開設記者会見

P.10

病院：第14回医療安全大会

P.20

附属看護専門学校：キャンドルサービス

P.23

## 理事長年頭所感・賀詞交換会

1月4日(木)午後4時から枚方学舎加多乃講堂において「理事長年頭所感表明」が行われ、総合医療センター、香里病院、および1月1日から本学附属病院となったくずは病院に同時中継されました。

山下敏夫理事長は年頭の挨拶を述べた後、「教育」「研究」「診療」「法人」について、創立90周年を迎える本学がここ数年行ってきた改革を説明。また今後の計画や方針・目標を表明しました。



厳かな雰囲気の中、年頭所感表明が行われた



新年の挨拶を述べる友田学長



乾杯の音頭をとる澤田病院長



挨拶する岩坂病院長



乾杯の音頭をとる高山病院長



挨拶する今村病院長

### 賀詞交換会(枚方学舎)

山下理事長の年頭所感表明の後、枚方学舎3階学生食堂に会場を移して賀詞交換会が行われました。会場には法人・大学・附属病院・附属看護専門学校から多数の教職員が集まり、新年をことほぎました。

友田幸一学長は新年の挨拶の中で、本学創立90周年という記念すべき年を、教職員一同皆で力を合わせ乗り越えていきたいとの意欲を述べました。また、乾杯の挨拶は附属病院澤田敏病院長(常務理事)が務め、前年発売された書籍に絡め、新たな年も飛躍の年にしたいと誓いました。

その後会場では教職員が思い思いに歓談し、新年の喜びを分かち合いながら決意を新たにしていました。

### 賀詞交換会(総合医療センター)

総合医療センターと天満橋総合クリニックの合同賀詞交換会は、総合医療センター南館3階大会議室にて行われました。総合医療センター岩坂壽二病院長(常務理事)は「職員総員で、一歩ずつでも着実に、昨年より前進していきたい」と抱負を述べ、天満橋総合クリニック浦上昌也院長が「今年は益々、附属医療機関同士の横の連携も強化していきたい」と述べて音頭を取り、全員で乾杯しました。

### 賀詞交換会(香里病院)

香里病院では、8階会議室で賀詞交換会が開催されました。高山康夫病院長から、訪問看護ステーションとケアプランセンターにおいてより一層地域との連携を深めるとともに、4月からのデイケアセンター開設に向け、円滑に運営できるよう教職員の協力をお願いしたいと挨拶がありました。乾杯の後、教職員がそれぞれ歓談しました。

### 賀詞交換会(くずは病院)

くずは病院では、2階職員食堂で賀詞交換会が開催されました。今村洋二病院長が「これまで通りの診療を患者さんに提供し、関西医科大学にとっても、くずは病院が附属病院として加わってくれてよかったと思ってもらえるような病院にしていきたいため、これからは皆さんには協力をお願いしたい」と挨拶。乾杯の後、職員がそれぞれ歓談しました。

## 関西医科大学くずは病院開院について

この度、平成29年12月31日付で医療法人柏友会から柏友会楠葉病院を本学が譲り受け、平成30年1月1日から本学の4つ目の附属病院「関西医科大学くずは病院」として運営することとなりました。

「関西医科大学くずは病院」は、診療体制を変わずに維持。また、通所リハビリテーション施設や訪問看護センターなどを併設しており、地域の一般病院という役割だけでなく本学附属病院群の後送病院としても連携を図っていく予定です。

今後も本学は、北河内地域の健康と医療を支えるという社会的使命を果たしていきます。

### 【病院概要】

新名称：関西医科大学くずは病院

院長：今村 洋二

所在地：〒573-1121 大阪府枚方市楠葉花園町4番1号

病床数：94床【一般30床(地域包括ケア病床18床)、  
回復期30床、療養34床】

標榜科目：内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、外科、  
整形外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、放射線科、  
リハビリテーション科

建物：地下1階、地上4階建(8885.87㎡)

【病院周辺地図】



【京阪電車 樟葉駅下車徒歩約8分】

## 医療健康セミナー開催

平成29年11月18日(土)午後2時から枚方T-SITEりそな銀行枚方支店りそなホール(枚方市)において、「医療健康セミナー」が開催されました。このセミナーは、本学附属病院所属の医師らが、専門領域ごとに最新のトピックスをふまえて医療・健康についてわかりやすく解説する、シリーズ開催のイベント。初回は「専門医が明かす間違いだらけの健康情報」とのテーマで、附属病院健康科学センター木村穰センター長(健康科学教室教授)が講演し、適切な体重管理や入浴方法、運動についてなど、健康に関する最新の医学知識、研究結果を解説しました。

2回目となる12月16日(土)には、午後2時からりそなホールにて、附属病院呼吸器・感染症内科宮良高維診療教授(内科学第一講座診療教授)が「その方法で大丈夫？ インフルエンザ予防」をテーマに講演。インフルエンザの流行期に入ったこともあり多くの聴講者が集い、感染の仕組みや過去の流行時の様子、正しいマスクの使い方などの解説に、熱心に耳を傾けました。

なお、このセミナーは今後も毎月1回異なるテーマを取り上げ、開催する予定です。

今後の開催テーマなどについては、P.25をご覧ください。



木村教授の指導に合わせストレッチをする参加者



感染予防について解説する宮良診療教授

## 関西医科大学創立90周年記念事業募金のご案内

本学では「創立90周年記念事業募金委員会」を立ち上げ、現在、募金活動を鋭意推進中です。本学の未来のため、学生の学びのために、皆様のご協力をお願い申し上げます。

### 【募集要項】

#### 1. 募集対象

同窓会会員、本学学生の保護者、教職員、本学関連の個人および法人

なお、同窓会会員には牧野講堂(武道館)建設募金といたします。

#### 2. 募集金額

1口10万円、申込口数1口以上。

多数口のご協力ををお願い申し上げます。1口未満もありがたくお受けいたします。

#### 3. 募集時期・期間

○第1期募集(平成29年度)

申込期間 平成29年4月5日～平成30年3月31日

払込期間 平成29年4月5日～平成30年3月31日

○第2期募集(平成30年度)

申込期間 平成30年4月5日～平成31年3月31日

払込期間 平成30年4月5日～平成31年3月31日

#### 4. 申込方法

寄付申込書に所定事項をご記入ご捺印のうえ、返信用封筒にてお申し込みください。

寄付申込書は下記の3種類をご用意しておりますので、いずれかをご提出ください。

・個人の場合：特定公益増進法人申込書(個人用)

・法人の場合：受配者指定寄付金申込書

特定公益増進法人申込書(法人用)

#### 5. 払込方法

一括払込と分割払込の2種類があります。

#### 6. お問い合わせ先

関西医科大学法人事務局募金室

〒573-1010 大阪府枚方市新町二丁目5番1号

TEL：072-804-2146 FAX：072-804-2344

メール：bokin@hirakata.kmu.ac.jp

URL：http://www.kmu.ac.jp/bokin/index.html

ご不明な点は募金室までお問い合わせください。

なお、この募金の応募は任意です。

創立90周年記念事業募金として平成29年10月1日から平成29年12月31日までに寄付いただきました方々のご芳名を掲載させていただきます。ご芳志に対して衷心より感謝申し上げます。なお、募集当初から平成29年12月31日までの寄付金累計額は1億3,559万460円です。

**ご芳名のwebサイトでの掲載は控えさせていただきます。**

## 個人からの寄付金減税措置のご案内

### 【所得税】(どちらか一方の制度を選択)

#### (A) 所得控除 (「寄附金控除」)

寄付金額から2千円を差引いた金額を所得金額から控除できます。

所得控除を行なった後に税率を掛けるため、所得税率が高い高所得者の方に減税効果が高くなります。

※寄付金額は総所得金額等の40%が限度

#### (B) 税額控除 (「公益社団法人等寄附金特別控除」)

寄付金額から2千円を引いた額の40%が税額控除の対象額となります。

税率に関係なく、税額から直接控除するため、小口の寄付に減税効果が高くなります。

### 【個人住民税】

お住まいの市町村の条例により個人住民税において寄付金税額控除の対象となることがあります。詳しくはお住まいの市町村の住民税担当課にお問い合わせください。

平成29年1月1日から平成29年12月31日までに寄付をいただいた方には、1月下旬に「個人寄付金に係る減税措置のご案内」をお送りいたします。

※法人のご寄付の場合は、受配者指定寄付金制度を利用することで寄付金全額が損金算入されます

**最大で約40%が減税されます!**

## 枚方市駅前ロータリー車両乗降スペース前への上屋の設置

平成29年9月、京阪本線枚方市駅北口ロータリー内身体障害者車両乗降スペースに上屋が設置されました。これは、本学附属病院の病客送迎用バスの乗降場所でもある当所において、待合時の環境改善を図るため本学が設置費用を負担し、枚方市所有地に設置したものです。設置後は道路法第24条に則り、枚方市に寄付されました。



枚方市駅前ロータリー

## 「看護学部・看護学研究科同時開設」についての記者会見

平成29年11月15日(水)午前10時から枚方学舎1階オープンラウンジにおいて、「看護学部・看護学研究科同時開設」についての記者会見が開かれました。

友田幸一学長の挨拶後、看護学部設置準備室神崎秀陽室長(常務理事)が看護学部・看護学研究科が同時開設に至った経緯を説明。看護学部設置準備室片田範子教授が、独自の教育システムや全国に広がる実習施設について解説しました。

また、会見後の質疑応答においては実習の詳細や地域への影響、高度化する看護師人材ニーズ、卒業後の進路、新築される看護学部棟など、様々な事項に関して質問が出ました。



会見に臨む 左から友田学長、神崎室長、片田教授

## 本学監修本『自分で探す病気のサイン』発売記者会見



記者からの質問に答える澤田病院長

平成29年10月24日(火)午前11時から枚方学舎1階オープンラウンジにおいて、10月18日に発売した本学監修ムック「実は危ないその症状 自分で探す病気のサイン」についての記者会見が開かれました。

会見では附属病院澤田敏病院長(常務理事)の挨拶に引き続き、松田公志広報担当理事(広報戦略室室長)が本書の特徴や刊行の意義を語りました。

会見の中で、澤田病院長は「様々な健康情報があふれ、誤った情報も多い。本書を一家に一冊置いていただき、健康の道標として正しい情報を得る助けにしてほしい」と発刊に込めた思いを語りました。

## 平成30年度入職予定者看護部内定式及び内定者懇親会開催

平成29年11月4日(土)午前10時から附属病院13階講堂において「平成30年度入職予定者看護部内定式」が行われ、今年4月入職予定の看護職内定者126名が参加しました。

冒頭、岡崎和一看護・薬剤担当理事(内科学第三講座教授)、附属病院安田照美看護部長からの挨拶に続き内定証書授与が行われました。その後、附属病院看護部徳山博美副師長(急性・重症患者看護専門看護師)から講話があり、内定者たちは真剣な面持ちで耳を傾けました。

午前11時15分からは枚方学舎3階学生食堂に場所を移し、「内定者懇親会」が開催。総合医療センター並木

みどり看護部長が音頭をとって乾杯し、内定者は、先輩職員を交え自己紹介しました。

最後に香里病院谷田由紀子看護部長からの挨拶で終了しました。



岡崎理事から内定証書を授与される内定者

## 総合医療センターホスピタルガーデン「大阪府みどり基金事業補助金」交付決定

ホスピタルガーデンの整備にあたり、総合医療センターが地域における緑化推進活動に取り組む「実感・みどり事業者」として大阪府から認定を受け、「大阪府みどり基金事業補助金」が交付されることとなりました。

ホスピタルガーデンの整備工事は附属滝井病院(現総合医療センター)リニューアル事業の一環として平成29年10月から着工し、平成30年4月末に完成予定。敷地面積は8,781.88㎡(サッカーグラウンドの約1.2倍)で、緑化部分は6,414.61㎡と広大な緑地公園となります。



## 今号掲載期間の主な出来事をご紹介します (記事掲載はオレンジ太字)

法人	10月2日	事務職入職予定者対象内定式
	10月18日	本学監修ムック本発売
	<b>10月24日</b>	<b>同ムック本発売記者会見</b>
	<b>11月4日</b>	<b>看護部入職予定者対象内定式</b>
	<b>11月15日</b>	<b>看護学部・看護学研究科同時開設記者会見</b>
	<b>11月18日・12月16日</b>	<b>医療健康セミナー</b>
大学	1月1日	関西医科大学くずは病院開院
	1月4日	年頭所感表明・賀詞交換会
	<b>10月11日</b>	<b>チュービンゲン大学医学部生フェアウェルパーティー</b>
	10月12日	第6回臨床研究等倫理講習会
	<b>10月15日</b>	<b>慈仁会全国懇談会</b>
	<b>10月18日</b>	<b>実験動物慰霊祭</b>
	<b>10月23日</b>	<b>国際交流セミナー「米国の外傷治療の実際」</b>
	<b>10月24日</b>	<b>がんプロキックオフ フォーラム</b>
	<b>11月4日・5日</b>	<b>霜月祭2017</b>
	<b>11月10日</b>	<b>大学院企画セミナー</b>
	<b>11月15日</b>	<b>大学院教育ワークショップ</b>
	<b>11月16日</b>	<b>教員と学生との懇談会</b>
	<b>11月16日</b>	<b>大学院講座第749講</b>
	<b>11月19日</b>	<b>大学体験事業</b>
	<b>11月20日</b>	<b>ラオス医師来日、大学院講座第751講</b>
	<b>11月30日・12月1日</b>	<b>パーモント大学教員来学</b>
	<b>12月2・3日</b>	<b>第一回学術祭</b>
	<b>12月3日</b>	<b>ひらかた市民大学2017</b>
<b>12月6日</b>	<b>国際交流フォーラム</b>	
<b>12月11日</b>	<b>阪和地区月曜懇談会</b>	
<b>1月1日</b>	<b>リハビリテーション医学講座設置</b>	
病院	<b>10月7日</b>	<b>連携病院の会</b>
	10月28日	看看連携の会
	<b>11月13日</b>	<b>医療安全大会</b>
附属病院	<b>10月26日</b>	<b>病院ボランティアの集い</b>
	<b>11月8日</b>	<b>アレルギーセンタースキンケアセミナー</b>
	<b>11月29日</b>	<b>個人情報保護に関する研修会</b>
	12月14日	消防訓練
	<b>12月16日</b>	<b>市民公開講座(がんセンター)</b>
12月16日	クリスマスコンサート	
12月20日	子ども病棟クリスマス会	
総合医療センター	10月1日	Take! ABI 2017 in KANSAI
	<b>10月15日</b>	<b>日曜乳がん検診</b>
	10月21日	災害訓練
	<b>10月21日</b>	<b>外傷センターフォーラム</b>
	<b>11月4日</b>	<b>世界糖尿病デーフェスタ</b>
11月27日	精神薬理ゲノミクス研究会	
香里病院	12月16日	クリスマスコンサート
附属看護専門学校	<b>10月21日</b>	<b>ホームカミングディ</b>
	<b>10月25日</b>	<b>地震・消防訓練</b>
	<b>11月18日</b>	<b>平成29年度推薦入試日</b>
	<b>12月19日</b>	<b>キャンドルサービス</b>
卒後臨床研修センター	<b>10月13日・14日</b>	<b>臨床研修指導医養成講習会</b>
	<b>11月18日</b>	<b>初期臨床研修合同説明会開催</b>
	11月25日	看護教育担当者研修
	12月13日	附属病院研修管理委員会
	12月13日	総合医療センター研修管理委員会



事務職入職予定者対象内定式



ラオス医師による大学院講座



学術祭



子ども病棟クリスマス会



総合医療センター災害訓練

## 入学試験のお知らせ

平成30年度医学部一般入学試験(前期)第1次試験は1月27日(土)午前9時から大阪(インテックス大阪)・東京(TOC五反田メッセ)・名古屋(TKPガーデンシティPREMIUM名古屋新幹線口)・福岡(南近代ビル)の4会場で行われます。医学部一般入学試験(後期)の出願期間は、1月29日(月)～2月22日(木)(必着)で、第1次試験は3月3日(土)午前9時から本学枚方学舎にて行われます。

また、平成30年度看護学部(平成30年4月開設)一般入学試験は1月26日(金)午前10時から大阪会場(インテックス大阪)で行われます。詳細は本学ホームページをご覧ください。

## 平成30年度から医学部定員に静岡県地域枠を5名新設

本学医学部は、静岡県地域の医師確保に寄与することを目的に、平成30年度から入学定員を静岡県地域枠として5名拡大します。本地域枠で入学した学生には、月額20万円・年額240万円が最大6年間貸与され、初期臨床研修修了後、一定期間静岡県が指定する公的医療機関に勤務することにより、返済が免除されます\*。また、入学後は医師不足地域診療科特別枠入学者・大阪府地域枠入学者向けに実施する特別カリキュラムを受講するほか、静岡県担当者による講義や同県での学外実習も組み込まれる予定です。 ※静岡県「医学修学研修資金」制度を利用

修学資金 貸与金額	月額20万円、年額240万円(必須) 最大6年間最大1,440万円を貸与(貸与利息年率10%)
修学資金 返還免除条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学卒業後、2年以内に医師免許の登録を完了すること。</li> <li>・医師免許の登録後、直ちに、初期臨床研修を開始すること。</li> <li>・初期臨床研修修了後、静岡県内の県立病院、市町立病院などの公的医療機関等のうち、本人の意向を聴取し、大学と協議した上で県が個別に指定する機関で、医師として修学研修資金の貸与期間の1.5倍の期間勤務すること。</li> </ul>
選抜方法 及び 合否判定基準	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 一般枠、大阪府地域枠、静岡県地域枠の入学試験は同日・同一会場で一斉にかつ同条件で実施</li> <li>(2) 合否判定は、それぞれの枠が定員に達するまで順次判定するため、一般枠、大阪府地域枠、静岡県地域枠の合格最低点は異なることがある</li> <li>(3) それぞれの枠において、合格基準を満たす受験者がいないと判定した場合には、合格者数が募集人数を満たさない場合がある</li> <li>(4) 第2次試験(面接)において、静岡県地域枠志願であることの確認を行う</li> </ol>

詳細は、本学ホームページをご確認ください。

## リハビリテーション医学講座設置について

本学は今年、1月1日(月)付で、医学部に「リハビリテーション医学講座」を設置しました。

超高齢社会において、治療・予防の両面でリハビリテーション医療の需要はますます高まっており、また介護ロボットなどの新技術も次々と登場、進歩してきています。そのため、これらに対応できる担い手の育成は急務です。こうした社会的使命に応えるべく、従来の運動機能障害に対するものだけでなく、多彩なりハビリテーション医療に対応できる医療人を育成するため、リハビリテーション医学講座を設置しました。

本学は今後も、様々な展開を通して慈しみめぐみ愛を心の鏡とする医人の育成に取り組みます。

## 教員と学生との懇談会開催

平成29年11月16日(木)午後6時から、枚方学舎4階中会議室において「本学の教育に関する学生との懇談会」が開催されました。これは本学の教育理念である“人間性豊かな良医を育成する”ため、友田幸一学長をはじめとする教職員に、学生が日頃の思いを伝え、語り合うもので、本学の自由・自律・自学の学風が象徴的に具現化された取り組みです。

今回は、カリキュラムや学舎設備などに関する学生からの意見に対し、友田学長、病院長、教務部長などから、その実現可能性、今後の対応について考えが述べられました。また、最後には学生側から日頃の大学運営・教育・指導に対する感謝の言葉が述べられ、懇談会は幕を閉じました。

## 第1回学術祭開催

平成29年12月2日(土)・3日(日)、枚方学舎1階オープンラウンジにおいて、「第1回学術祭(世話人：公衆衛生学講座西山利正教授)」が開催されました。これは、友田幸一学長の発案で本学の学術研究の更なる進展を目的に、これまで「学内学術集談会」として開催していた企画を発展させたもの。

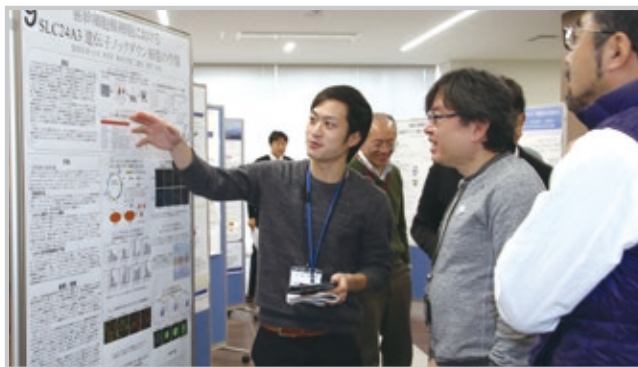
初日は友田学長の「開催の辞」に続き、7名の演者による「医学会賞公募演題口演」、新たな取り組みである留学生及び研究医養成コース学生による「ポスター発表プレゼンテーション」とそれに先立つフラッシュトークが行われました。その後も、友田学長と看護学部設置準備室片田範子教授、附属病院安田照美看護部長による鼎談『医学と看護のコラボレーション』や、「KMU研究

コンソーシアム」及び学内研究助成の成果発表、「サテライトシンポジウム」が、翌3日には産学連携に関するポスター展示が行われました。

初の試みとなった今回のイベントには研究分野、職種を越えて多数の教職員が集い、2日間で述べ211名が参加しました。



「開催の辞」を述べる友田学長



ポスター発表でのプレゼンテーションの様子



医学会賞応募口演の様子

## ひらかた市民大学2017開講

平成29年12月3日(日)午前11時から、枚方学舎1階オープンラウンジにおいて「ひらかた市民大学2017」が開催され、事前に申し込んだ市民ら58名が参加しました。これは、枚方市と市内5大学が学園都市ひらかた推進協議会を通して毎年開催しているもので、今年のテーマは『高齢者のフレイル(心と体の衰弱、ひきこもり)を予防するための運動と食のプログラム』。

演者として登壇した公衆衛生学講座西山利正教授は、“フレイル(心と体の衰弱、引きこもり)”の定義や予防のポイント、附属病院健康科学センターと連携して展開しているフレイル予防プログラムの様子、予防に有効な運動療法、食事の献立など、多岐にわたってスライドやムービーを交えながら解説。講演途中には健康科学教室

木村穰教授が考案したBSL (Break Sedentary Lifestyle) 運動を実演しました。参加した市民らは熱心に聴講し、フレイルについての理解を深めるとともに、自身や親世代のフレイル予防について認識を新たにしていました。



講演する西山教授と、聞き入る聴講者



## 2017年度霜月祭「No Rain No Rainbow」

平成29年11月4日(土)・5日(日)の両日、枚方学舎各所において「2017年度霜月祭」が開催されました。初日の午前10時、中庭に設置された特設ステージでのオープニング企画から開幕。2日間にわたって、軽音楽部やフォークソング部による演奏、ダンス部の演技、クイズ大会など、多彩な企画が繰り広げられました。

また今年も、各クラブが模擬店を出店。留学生らによる「KMU International Cafe」も出店され、各国からの

留学生が出身国の料理をふるまいました。

さらに1階オープンラウンジでは、医科大学ならではの企画「医学博」が開催され、BLS(一次救命措置)体験、外科医の手技を体験できる「糸結び」、附属病院で医師が着用しているスクラブを試着できる体験コーナー、アロマセラピーのワークショップなど、さまざまな企画が実施されました。



オープニング企画で空に飛ばす風船を持つ参加者ら



「医学博」BLS体験コーナー

## 抗体医薬の第一人者松村氏を講師に大学院企画セミナー開催

平成29年11月10日(金)午後5時30分から枚方学舎4階中会議室において、平成29年度第二回「大学院企画セミナー」が開催されました。これは例年本学が各分野の第一人者を招き、大学院生・教職員・学部学生、および学内外の関係者を対象に行っている連続講座です。

今回は国立がん研究センター先端医療開発センター新薬開発分野松村保広分野長を講師に迎え、『新しい概念に基づく抗体医薬開発』をテーマに実施されました。講演では、松村分野長が初めて提唱したEPR(Enhanced Permeability and Retention effect)効果や、自身が開発した「がん間質ターゲティング(CAST: Cancer Stromal Targeting)療法」、現在取り組んでいる最新の

研究などについて詳しく解説。講演の最後には、研究にあたっての心構えなど、後進の研究者らへのメッセージも贈られ、受講者は熱心に聴講しました。その後の質疑応答では活発なやりとりが行われ、今回のセミナーは終了しました。



講演中の松村分野長

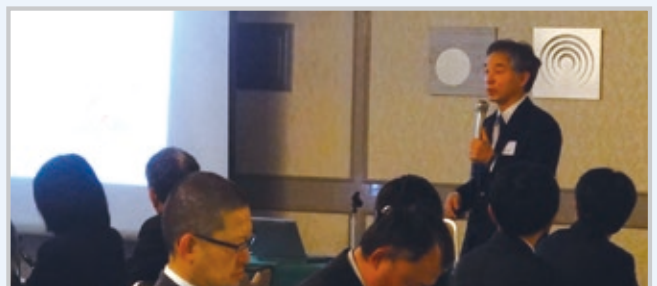
## 阪和地区月曜懇談会「12月例会」

平成29年12月11日(月)午後1時30分から、ホテルアウリーナ大阪(大阪市天王寺区)「生駒」において、平成29年度阪和地区月曜懇談会「12月例会」が開催されました。

同会は、毎年3回大阪・和歌山地区の大学及び短期大学の会員校が、学生指導に関して相互の研鑽と親睦を図ることを目的に実施。今回は本学が当番校となり、会員校の学生関係業務に従事する事務職員68名が参加しました。

この日は本学福永幹彦学生部長(心療内科学講座教授)が開会挨拶をした後、「大学生のストレスと体の病気」と題して講演。ストレスが及ぼすところや体への影響、生活上のストレスや大学生のストレスによる病気につい

て、いくつかのストレス対処法を参加者とともに実践しながら解説しました。



講演を行う福永学生部長

## 大学院教育ワークショップ

平成29年11月15日(水)午後5時30分から枚方学舎2階第4講義室、学生セミナー室及び会議室において、平成29年度「大学院教育ワークショップ」が開催されました。これは大学院教育の実質化、充実化を図る目的で毎年開かれており、今回は「より魅力的な大学院とはー入学者を増加させるための方策を考えるー」をテーマに実施されました。

まず、第4講義室において、中邨智之大学院教務部長(薬理学講座教授)から、近年の大学院入学者の傾向や若手医師を対象に行った大学院進学に関する意向調査の結果について講演が行われました。

続いて参加者は6つのグループに分かれ、学生セミナー室及び会議室において、大学院教育のさらなる充実に向けて討論を行いました。その後、各グループは再度第4講義室に集合し、討論結果を発表。活発な意見交換の

後、中邨大学院教務部長の全体講評及び閉会の挨拶があり、終了しました。



グループ討論の様子

## 平成29年度慈仁会全国懇談会を開催

平成29年10月15日(日)午前11時から枚方学舎加多乃講堂を主会場に、医学部1~6学年の保護者他360名が参加し、「平成29年度慈仁会全国懇談会」が開催されました。

冒頭の総会は各学年の講義室へ同時中継され、友田幸一学長、福永幹彦学生部長、野村昌作副学長・教務部長および慈仁会杉浦哲朗委員長が順に挨拶。その後はクラスアドバイザー教員とのクラス別懇談会、個別懇談会が行われました。

また、個別懇談会と並行して図書館やシミュレーションセンター、歴史資料室(以上枚方学舎3階)、オープンラウンジ(同1階)、カフェテリア(同4階)、中庭など大学施設の見学、本学の副章をデザインしたバッジ、学舎

の絵葉書など大学関連グッズの販売も行われ、全国から訪れた参加者で賑わいました。



挨拶する友田学長

## 第43回実験動物慰霊祭を挙

平成29年10月18日(水)午後1時から枚方学舎加多乃講堂において「第43回関西医科大学実験動物慰霊祭」が執り行われ、友田幸一学長や伊藤誠二副学長(研究担当)をはじめ、動物実験に関わる教職員が列席しました。冒頭、実験動物飼育共同施設平野伸二施設長(生物学教室教授)が慰霊の辞を捧げ、これまでの医学の発展は、実験動物の存在なくしてはなし得ないものだったこと、動物実験の社会的な意義を認識し、今後も適正な動物実験を行っていく必要がある旨を述べました。その後、午後3時まで加多乃講堂に設けられた献花台には、研究者や教職員が次々と慰霊に訪れました。



慰霊の辞を捧げる平野施設長

## 国際交流フォーラム開催

平成29年12月6日(水)午後5時30分から、枚方学舎3階学生食堂において「第6回国際交流フォーラム」が開催されました。

国際交流センター鈴鹿有子センター長(学長特命教授)司会のもと、友田幸一学長の開会挨拶と乾杯でフォーラムがスタート。続いて、留学生による研究発表や「配属実習」で留学した3学年学生の活動内容発表、「高度医療人育成制度」を利用して留学した教員による海外での活動に関するプレゼンテーションが行われました。

クリスマスの時期が近いことから、各国からの留学生が母国語でクリスマスソングを披露する一幕もあり、和やかな雰囲気の中、集まった教職員・留学生らが交流を深めました。



記念撮影の様子

## ラオス医師来日、大学院講座第751講開講

平成29年11月20日(月)、ラオス人民民主共和国カムアン県保健局 Thonelakhanh Xaypangna 局長、Odai Soprasert 事務長が本学を訪問し、友田幸一学長、国際交流センター鈴鹿有子センター長(学長特命教授)、公衆衛生学講座神田靖士准教授、本学研究員 Phephet Lamaningao 氏と会談。Xaypangna 局長からは記念品としてラオスの建築物を描いたプレートが贈呈されました。

続いて同日午後6時から枚方学舎2階学生セミナー室2Cにおいて、大学院講座第751講が開講され、Xaypangna 局長が「Health situation in Kammouane Province in Lao」、Soprasert 事務長が「Dengue Fever Control in Kammouane Province in Lao」と題して、ラオスにおける住民の健康増進と疫学、保健・医療の状況について講演しました。



会談時の様子

## 国際交流セミナー「米国の外傷治療の実際」開催

平成29年10月23日(月)午後5時15分から枚方学舎2階学生セミナー室2Cにおいて、カリフォルニア大学サンフランシスコ校(アメリカ)整形外科長尾正人准教授を講師に招いた国際交流セミナーが行われ、友田幸一学長をはじめ、国外臨床実習に参加予定の学生や整形外科学講座、救急医学講座のスタッフなど、29名が参加しました。講演は「米国の外傷治療の実際」をテーマとし、長尾准教授が San Francisco General Hospital などサンフランシスコ地域の救急搬送患者受入状況、病院側の受入態勢などについて詳しく解説。日本とは異なるスタッフの配置や受入態勢などの説明を、参加者は熱心に聴講しました。また、講演後にはスマートフォンなどを用いて解答できるクイズ形式の理解度チェックテストも実施。その後の質疑応答では、望ましい救急受け入れ態

勢などについて質問があり、活発な意見交換が行われました。



セミナー終了後、記念撮影に応じる長尾准教授(前列左から2人目)

## チュービンゲン大学学生来学

平成29年9月15日(金)、本学と学術交流協定を結ぶチュービンゲン大学(ドイツ)から医学部生のAnnika Fritz氏が来学しました。Fritz氏は10月14日(土)まで本学に滞在し、附属病院で臨床実習や手術見学を行いました。また、帰国前の10月11日(水)午後6時から、枚方学舎4階カフェテリアにおいてフェアウェルパーティーが開かれ、国際交流センター鈴鹿有子センター長(学長特命教授)、国際交流センター岩井大副センター長(耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座教授)、Fritz氏が実習を行った外科学講座他の教員や学生・留学生らが参集。Fritz氏によるプレゼンテーションでは、ドイツと日本

の医師免許取得までの制度の違いや本学での実習で印象深かったことなどについて、紹介しました。



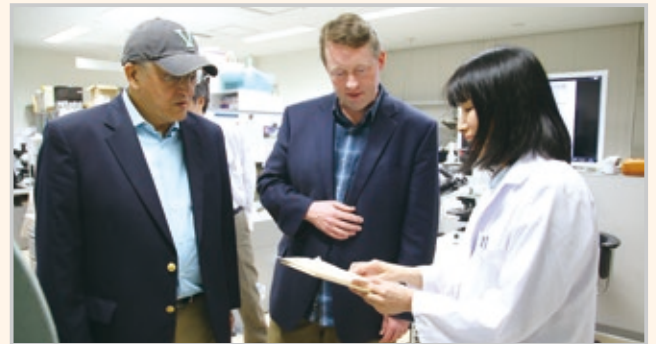
鈴鹿センター長から修了証を授与されるFritz氏(左)

## バーモント大学教員来学、講義

平成29年11月30日(木)、本学と国際交流協定を結ぶバーモント大学(アメリカ)から木田正俊教授、Scott Anderson准教授が来学しました。友田幸一学長、国際交流センター鈴鹿有子センター長(学長特命教授)との面会時には、両校での留学生受け入れなどについて会談。滞在中は、附属病院病理部や附属生命医学研究所、今年8月に拡充された枚方学舎3階シミュレーションセンターなどを見学しました。

また、12月1日(金)午後5時30分からは枚方学舎4階中会議室において「Integrating Anatomic and Molecular Diagnoses in Thyroid Diseases: An American Perspective」と

のテーマで、Anderson准教授による講演が行われ、終了後には活発な質疑応答が行われました。



附属病院病理部を見学する木田教授(左)、Anderson准教授(中央)

## 大学院講座第749講開講開催

平成29年11月16日(木)午後5時30分から枚方学舎1階第1講義室において、大学院講座第749講が開講されました。これは本学大学院生向けの講義に外部講師を招き、特別講義として開講したもの。今回は国際医療福祉大学医学部医学教育統括センター押味貴之准教授を講師に迎え「出版倫理の基本ルール」をテーマに実施されました。

押味准教授は、英文の論文を投稿する際の留意点や投稿規程に関する用語、英語圏でよく用いられる表現などについて、豊富な実例を用いながら解説。また講義の最後には、英語の上達法に関するアドバイスも贈られました。講義中は、講師から聴講者にも英語の形容詞表現に

関する質問が出されたり、講義後には熱心に質疑応答がなされたりと、活発なやり取りが交わされました。



聴講者に語りかける押味准教授

## 平成29年度第3期がんプロキックオフフォーラム開催

平成29年10月24日(火)午後5時から枚方学舎加多乃講堂において、「平成29年度第3期がんプロキックオフフォーラムー関西医科大学におけるがんプロの現状と今後の展望ー」が開催され、友田幸一学長、野村昌作副学長(内科学第一講座教授・本学がんプロプロジェクトリーダー)を始め本学教職員他52名が参加しました。

このフォーラムは、本学が文部科学省の多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材養成プラン」に、近畿大学を中心とした7大学9学部が連携して採択されたことを記念し、これまでのがんプロフェッショナル事業の歩みや今後の方向性を共有するために開催されたものです。

友田学長の挨拶の後、セッション1では、野村副学長が「がんプロの概要とこれまでの歩み」として本学の取り組みを講演。セッション2では「関西医大におけるがんプロ第2期を振り返って」をテーマに、外科学講座柳本泰明講師が「医師の立場から」、附属病院がん治療センター緩和ケアチーム佐久間博子副院長が「看護師の立場から」、大学院医学研究科血液・呼吸器・膠原病・感

染症内科学4年吉村英晃大学院生が「大学院生の立場から」と題して講演。セッション3では、「関西医大におけるがんプロ第3期に向けて」をテーマに臨床病理学講座蔦幸治教授が「関西医大におけるゲノム医療実用化の問題点」、小児科学講座河崎裕英講師が「小児がんの診断と治療」と題して講演。最後に中邨智之大学院教務部長(薬理学講座教授)が挨拶を行い、閉会しました。



セッション1で講演を行う野村副学長

## 大学体験事業 一日お医者さん！開催

平成29年11月19日(日)午後1時30分から、枚方学舎と附属病院において枚方市内在住および市内の学校に通う小中高生を対象とした平成29年度子ども大学探検隊・中高生大学体験事業「体験型学習 一日お医者さん！」が開催され、抽選で選ばれた児童・生徒36名が参加しました。これは、学園都市ひらかた推進協議会が行う事業の一環で、枚方市と市内5大学が連携して“魅力あるまちづくり”を目的として行われたもの。本学においては今年で3回目の開催となりました。

当日は冒頭友田幸一学長が挨拶した後、小学生と中高生の2グループに別れ、それぞれ枚方学舎3階シミュレーションセンターでは手洗い指導体験や内視鏡シミュレーター体験、BLS(一次救命処置)学習が、附属病院4階手術

部ではダ・ヴィンチSi®の体験が行われました。また、枚方学舎1階試験実習室では外科学講座土井崇診療教授が模擬授業を開講。その他にも現役医学部生が受験体験記を語り、最後は参加者全員に友田学長から修了証が手渡されました。



参加者と関係者全員で記念撮影

## 病理解剖李教務技師が文部科学大臣表彰を受賞



賞状を手にする李教務技師

平成29年度医学教育等関係業務功労者に病理解剖の李重煥教務技師が選ばれ、平成29年11月28日(火)文部科学省において行われた表彰式に出席。文部科学大臣表彰を受賞しました。

文部科学省では、医学・歯学の教育や研究等の補助的業務において特に顕著な功績のあった人を対象に大臣表彰を行っています。今回、李教務技師が昭和57年の本学入職以来、35年余の長きにわたって病理解剖の円滑な遂行に寄与した功績が認められ、表彰を受けるに至りました。

若手研究者特集

様々な研究活動とその成果が学内外から表彰され、躍動する本学の若手研究者たち。その活躍の一端をご紹介します。

※記事企画時点で40歳以下で、一定の研究成果を持つ研究者の先生方にインタビューする連載企画です。

がんの転移を促進する微小環境を解明し、がんの個別先制医療の確立へ

先生の研究テーマについて教えてください。

「先んずれば病を制す」。がん転移のメカニズムを解明することで、転移を未然に制御する、個別先制医療の確立が目標です。「肺癌前転移ニッチ関連バイオマーカーの特定と先制医療への展開」の研究で、科研費基盤研究(C)に採択されました。肺癌では、根治手術の際に転移を促す微小環境(前転移ニッチ)が既に形成されている可能性が指摘されています。これらの形成機構および治療標的が明らかになれば、転移を未然に制御する早期治療介入(=先制医療)を確立でき、確実ながん根治、さらには手術不能のがんの制御・共存が可能となります。

どのように研究を進めているのですか。

肺癌切除検体における遺伝子発現を網羅的に解析し、再発症例と無再発長

期生存症例との比較を通じて前転移ニッチ関連バイオマーカーの特定を目指しています。また、本学特有の取り組みである「研究医長・研究トークランチ責任者合同リトリート」がきっかけで、がん転移におけるイオンチャネルの役割の解明を目的に、外科学講座、脳神経外科学講座、生理学第一講座、解剖学第二講座、臨床病理学講座とともに、共同研究を進めています。

後輩研究者にメッセージを。

研究活動では、さまざまな人との出会いを大切にしたいと思えます。“Friendship develops through science”---2011年にトロント大学に留学した際、同じ志を持ち人種や文化の違いを超えてわかりあえる科学者に出会えたことは今も財産となっています。



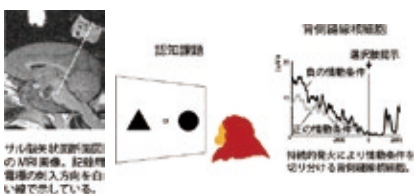
呼吸器外科学講座  
齊藤 朋人 助教

- 主な受賞・競争的研究費採択歴
- ・2008年7月 優秀演題(第88回日本肺癌学会関西支部会)
- ・2009年12月 最優秀演題(第9回呼吸器胸腔鏡手術手技研究会)
- ・2010年4月 関西医科大学同窓会藤原登美子賞(海外留学助成)
- ・2011年4月 慈仁会 海外研究員派遣援助
- ・2011年4月 上原記念生命科学財団海外留学リサーチフェローシップ
- ・2012年4月 日本学術振興会 特別研究員(DC2)
- ・2015年1月 Brinda Murti Memorial Award for Excellence in Lung Transplant Research
- ・2016年2月 優秀演題(第103回日本肺癌学会関西支部会)
- ・2016年 科学研究費基盤研究(C)採択研究課題「肺癌前転移ニッチ関連バイオマーカーの特定と先制医療への展開」

情動が行動に与える影響を明らかに

現在の研究テーマを教えてください。

情動は行動や意思決定に影響を与えますが、それがどのような仕組みで行われているのかはよく分かっていません。情動と深い関わりを持つと考えられる脳内のセロトニン神経細胞は、その大半が脳幹部にある背側縫線核に局在しています。私は、情動による行動、意思決定制御の神経機構を明らかにするため、マカサルを様々な情動下に置き、認知課題を行わせながら背側縫線核の神経活動を、細胞単位で計測しています(単一細胞外記録)。

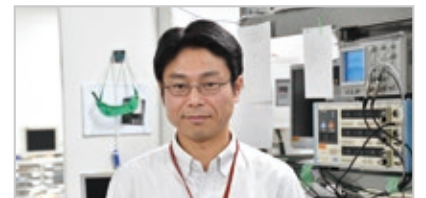


情動に興味を持つようになったきっかけを教えてください。

「宇宙の端はどうなっているのか?」など、自分の想像力の限界を超えるような問いを立てるのが子供のころから好きでした。ある時期からそうした問いが意識など自己の内面の方へと向けられ、脳機能の研究に興味を持ち始めました。米国国立眼科研究所に在籍していた時、過去の報酬経験が「もの」の価値記憶として脳の大脳基底核という部分に蓄えられ、価値のある「もの」を見るとき行動を引き起こすことを、覚醒サル単一細胞外記録によって明らかにしました。

研究の場として本学を選んだ理由は。

価値に基づいた行動に情動がどのような役割を果たしているのかに興味を持ち、覚醒サルからの背側縫線核の情動シグナルの記録という先駆的な研究を行っていただいた中村加枝教授(生理学第二講座)の研究室の門を叩くこととなりました。



生理学第二講座  
安田 正治 講師

- 主な受賞・競争的研究費採択歴
- ・NEI, Focus on Fellows 2012, Best Scientific Presentation
- ・2015年 若手研究(B)新規
- ・2015年 公益財団法人島津科学技術振興財団 平成26年度研究開発助成金
- ・2015年 公益信託成茂神経科学研究助成基金 平成27年度研修助成金

後輩研究者にメッセージを。

体が動き元気に仕事ができることを喜び、世界で自分だけが目の前の現象を目撃しているのかもしれない「現場」にいることの幸せを噛み締めましょう。あなたが現場で得られた興奮が、新しく独創的な着想の種となることを願っています。

病院

## 第14回医療安全大会開催

平成29年11月13日(月)午後5時30分から、附属病院13階講堂・合同カンファレンスルーム、総合医療センター南館2階臨床講堂、香里病院8階会議室の3病院4会場を遠隔会議システムで結び、「第14回医療安全大会」が開催されました。本年は附属病院324名、総合医療センター214名、香里病院55名の計593名が参加しました。

医療安全管理センター神崎秀陽センター長が司会を務め、附属病院澤田敏病院長、山下敏夫理事長が順に挨拶。医療においては安全が何より重要であることを改めて認

識し、安心・安全の医療を提供するという意識を高める本会の目的などが語られました。

その後は3病院から5名の演者が、実例に基づいた発表を行いました。発表の後には質疑応答の時間が設けられ、他院の事例を自分たちの職場における安全性向上に役立てようと、積極的に質問する姿が見られました。閉会挨拶では総合医療センター岩坂壽二病院長が、多岐にわたる事例の発表へのねぎらいを述べて会を締めくくりました。



附属病院会場の様子



総合医療センター会場の様子



香里病院会場の様子

### 当日の発表プログラム

#### 第一部《香里病院》 座長：医療安全管理部 廣原 淳子 部長

「当院での個人防護具の啓発活動」

感染制御部 吉田 秀行 部長

#### 第二部《総合医療センター》 座長：医療安全管理部 岩瀬 正顕 部長

「臨床倫理コンサルテーションチームの活動について」

臨床倫理・合意形成支援センター 金田 浩由紀 センター長

「梅毒 ～最近の動向～」

感染制御部 清原 隆宏 部長

#### 第三部《附属病院》 座長：医療安全管理部 岡崎 和一 部長

「突然の気管切開チューブトラブル」

循環器内科 村川 紘介 病院助教

「地域の関連病院に対する当院ICTの感染対策支援事例」

感染制御部 宮良 高維 部長

病院

## 第4回関西医科大学連携病院の会

平成29年10月7日(土)午後5時から、リーガロイヤルホテル(大阪市北区)『光琳の間』において、「第4回関西医科大学連携病院の会」が開催され、本学附属医療機関の連携病院の医師と登録医ら395名が参加しました。この日は地域医療センター谷川昇センター長(放射線科学講座教授)司会のもと、山下敏夫理事長の挨拶で開幕。続いて厚生労働省鈴木康裕医務技監が登場し、一般社団法人日本医療法人協会加納繁照会長が座長を務める中、「平成30年医療・介護同時改定 toward & beyond 変わるのは、今だっ!」をテーマに、医療と介護のダブル改定となる平成30年度診療報酬改定について解説しました。続いて附属病院澤田敏病院長、総合医療センター岩坂壽二病院長、香里病院高山康夫病院長が、それぞれ附属医療機関の近況を報告しました。

その後会場を同ホテル『ロイヤルホール・ラウンジ』へ移し、懇親会がスタート。本学各講座の教授や教員も出席し、出席者と盛んに情報を交換するなど、親交を深めました。



鈴木医務技監による当日の講演の様子

附属病院

## 附属病院ボランティアが表彰

平成29年10月26日(木)午後1時30分から、ホテルアウィーナ大阪(大阪市天王寺区)において、特定非営利活動法人日本病院ボランティア協会主催「2017年度病院ボランティアの集い」が開催されました。この集いは全国の病院から病院ボランティア、ボランティア担当職員などが集まる交流会で、その中でボランティア活動1,000時間達成者に感謝状と記念品が授与されました。

今回は附属病院のボランティアの松原丘さんが1,000時間達成者として、日本病院ボランティア協会吉村規男理事長から感謝状を授与されました。その後は親睦会も催され、出席者らは一緒に歌を歌ったりアトラクションを楽しんだりしながら、和やかなひと時を過ごしました。



感謝状を授与される松原さん(右)

附属病院

## アレルギーセンタースキンケアセミナー開催

平成29年11月8日(水)午後6時から、枚方学舎3階学生食堂において附属病院アレルギーセンター主催「スキンケアセミナー」が開催されました。これは、普段皮膚疾患の患者さんと触れ合う機会の多い医師や看護師、医療従事者向けに、皮膚に対する理解と正しい薬剤の塗り方などを身につけ、診療や指導で役立ててもらおうと附属病院アレルギーセンター神戸直智副センター長(皮膚科学講座准教授)が企画したもの。48名が参加しました。セミナーでは神戸副センター長が「アレルギー診療におけるスキンケアの重要性」を講演し、附属病院看護部褥瘡対策室三浦千歳皮膚・排泄ケア認定看護師が、石鹸の泡だてと外用剤の塗り方を実技指導。参加者は皮膚に関

する知識を深めるとともに、推奨される石鹸の泡だて方や外用剤の適量を体験しました。



石鹸の泡だてを学ぶ参加者

附属病院

## がんセンター主催市民公開講座

平成29年12月16日(土)午後2時から附属病院13階講堂において、「肺がん治療の最前線」と題する市民公開講座が開催され、市民ら89名が参加しました。

附属病院がんセンター蔦幸治センター長(臨床病理学講座教授)による挨拶の後、附属病院呼吸器外科村川知弘教授(呼吸器外科学講座)が「肺がんの外科治療」をテーマに、附属病院呼吸器腫瘍内科吉岡弘鎮准教授(内科学第一講座)が「肺がんの薬物治療」をテーマに、附属病院放射線治療科中村聡明准教授(放射線科学講座)が「肺がんの放射線治療」をテーマに、それぞれ講演しました。

「肺がん」という共通のテーマを異なる三つの分野から解説する講演は、予定の時間を超過するほど熱のこも

った内容となり、参加者らは最後まで熱心に耳を傾けていました。



参加者からの質問に答える吉岡准教授(左奥)



## 附属病院 個人情報保護に関する研修会

平成29年11月29日(水)17時30分から附属病院13階講堂において、個人情報保護委員会附属病院小委員会主催で「個人情報保護に関する研修会」が開催され教職員108名が出席しました。

大学情報センター仲野俊成准教授が「病院情報システムを安全に利用するために」を、看護部大北沙由利師長が「医療現場における個人情報保護」をテーマに、それぞれ講演をしました。

個人情報保護法の改正点や医療分野での取り扱い、実際に起こり得る個人情報漏洩のシチュエーションなど、身近な内容に、参加者はメモを取りながら熱心に

耳を傾けていました。



講演に耳を傾ける参加者

## 総合医療センター 日曜乳がん検診・乳がんに関する無料講演会開催

平成29年10月15日(日)午前9時から午前12時まで、総合医療センター本館2階乳腺外科において、乳がん検診と講演会・イベントが実施されました。これは、総合医療センターが昨年に引き続き、認定NPO法人J.POSHがJ.M.S<sup>®</sup>(ジャパン・マンモグラフィ・サンデー)と称して取り組む「10月第3日曜日に乳がん検診マンモグラフィ検査を受診できる環境づくり」に賛同して実施するイベントです。

例年は検診のみを実施していましたが、今年からもっと広く乳がんのことを知ってもらうため、総合医療センター乳腺外科山本大悟病院教授(外科学講座准教授)、同センターの西村和美乳がん認定看護師による無料講演

会、さらに触診模型体験ブースなどのイベントコーナーを設置し、啓発活動を行いました。



医師・認定看護師相談ブースの様子

## 総合医療センター 世界糖尿病デーフェスタ2017開催

平成29年11月4日(土)午後1時から、総合医療センター南館3階各所において「世界糖尿病デーフェスタ2017 防ごう!知ろう!糖尿病!『アレ??コレ??って物忘れ?』~糖尿病と認知症の意外な関係~」が開催され、今年で5回目となるイベントに患者さんやそのご家族など44名が来場しました。

当日は、附属病院糖尿病科田代香織医師(内科学第二講座)が「認知症について」をテーマに、糖尿病と認知症の関係について解説したビデオ講演を放映。その他にもイスに座りながら行う腰掛けタップダンス<sup>®</sup>や、血糖・血圧測定、医師相談コーナーなどに、たくさんの市民が訪れました。また、糖尿病について語り合うことで

病との付き合い方に気づきを得る「カンパセッションマップ」を初開催。参加者自身や親しい人の体験談を共有しながら、真剣な表情で取り組んでいました。



腰掛けタップダンス<sup>®</sup>を楽しむ参加者ら

## 総合医療センター 第1回総合医療センター外傷センターフォーラム開催

平成29年10月24日(火)午後6時30分から、総合医療センター南館2階臨床講堂において「第1回総合医療センター外傷センターフォーラム」が開催されました。これは、同センターに平成29年1月設置された救命救急センター外傷センターを周知するために開催されたもの。総合医療センター岩坂壽二病院長、関連診療科の医師・看護師のほか、各市の各消防隊員など約100名が参加しました。

フォーラムでは総合医療センターリハビリテーション科菅俊光診療部長(整形外科学講座准教授)が司会を務め、カリフォルニア大学サンフランシスコ校(アメリカ)整形外科長尾正人准教授が米国における救急医療の実態を、総合医療センター救命救急センター外傷センター齊

藤福樹講師(救急医学講座)が外傷センターの狙いやこれからについて、それぞれ講演しました。



参加者の質問に答える齊藤講師(画面奥右側)と、長尾准教授(同左側)

## 平成29年度ホームカミングディ開催

平成29年10月21日(土)午前10時から、附属看護専門学校牧野キャンパスにおいて「平成29年度ホームカミングディ」が開催されました。この日は、今春学校を巣立った35期生の16名が参加。32期・33期の先輩6名も加わり、看護師として働いてきた中での体験談やアドバイスと共に35期生へエールを送りました。

その後、3年間の学生生活をともに過ごした仲間同士や、お世話になった教員も交えて歓談、仕事の話や思い出話などを楽しんでいました。最後は中庭をバックに集合写真を撮り、全プログラムが終了。参加者は名残惜しそうに牧野キャンパスを後にしました。



食堂で集合写真を撮影

## キャンドルサービス

平成29年12月19日(火)午後3時30分から附属病院において、附属看護専門学校学生によるキャンドルサービスが行われました。キャンドルを手にした学生がグループに分かれ、順番に病室を訪問。温かい光に照らされた病棟内に「きよしこの夜」の歌声が響く中、学生たちは入院患者さんたちにメッセージカードを手渡しました。また、病室を回った後は全員が1階センターアトリウムに集合し、「サンタが街にやってくる」「ジングルベル」などのクリスマスソングを合唱しました。

附属看護専門学校楠本健司学校長(形成外科学講座教授)、附属病院川村元伸事務部長の挨拶の後、実行委員代表の附属看護専門学校3年A組篠田桃子さんが感謝の言葉を述べました。



センターアトリウムにクリスマスソングを響かせる

## 地震・消防訓練実施

平成29年10月25日(水)午後2時50分から附属看護専門学校において、学生227名ほか教職員らが参加し、「平成29年度附属看護専門学校地震・消防訓練」が行われました。

今回は、地震発生により第一実習室北側から出火、初期消火に失敗したとの想定で訓練がスタート。非常放送の内容に従って、教室からグラウンドへ、教職員が学生の避難を誘導しました。その後は枚方東消防署出張所消防署員の指導のもと、水消火器訓練を実施した後、屋内消火栓を使った放水訓練を学生・教職員の代表者が体験しました。

最後に枚方東消防署出張所消防隊長、附属看護専門学校牛嶋百合子教務部長らが講評し、それぞれ「将来医

療に従事するという立場を意識しながら訓練に取り組んでほしい」「将来患者さんの命を預かる立場となることを改めて自覚してほしい」と述べました。



消火栓からの放水を体験する様子

## 平成30年度附属看護専門学校推薦入学試験

平成29年11月18日(土)午前9時から、附属看護専門学校において「平成30年度附属看護専門学校推薦入学試験」が実施され、54名が受験しました。また、合格発表は11月28日(火)午前9時に行われ、看護専門学校玄関に合格者35名の受験番号を掲示するとともにホームページでも公開されました。

卒後臨床研修センター



## 平成29年度臨床研修指導医養成講習会開催

平成29年10月13日(金)・14日(土)の2日間、ホテルコスモスクエア国際交流センター(大阪市住之江区)において「平成29年度臨床研修指導医養成講習会」が開催され、学内関係者26名、学外研修協力病院関係者4名の合計30名が受講しました。

これは毎年、厚生労働省が定めた指針に基づき、臨床研修指導医に必要な講習会の受講と修了証書の取得を目指して実施するもの。アドバイザータスクフォースとして、聖路加国際病院福井次矢院長、独立行政法人国立病院機構関門医療センター林弘人病院長を招聘し、ワークショップ形式での全体討議、グループワーク、ミニレクチャーが行われ、活発な議論が交わされました。

## 初期臨床研修合同説明会開催

平成29年11月18日(土)午後3時から附属病院13階講堂において、平成31年度以降の研修医採用に向けた「初期臨床研修合同説明会～一緒に考えよう。医師としての大切な第一歩～」が開催されました。今年には本学から18名、他大学から8名の合計26名の第5学年医学部学生が参加。また、説明会終了後に開催された情報交換会では学内指導医も出席し、医学生と終始和やかな雰囲気で見聞交換するなど、盛況のうちに終了しました。



真剣な表情で説明会に臨む医学生

お知らせ



## 加藤准教授、2件の研究助成を受賞

精神神経科学講座加藤正樹准教授が『ゲノミクス-エピゲノミクス-インフォマティクスによる、精神科領域でのプレジジョンメディシンを目指した臨床薬理学的研究』の研究テーマで「臨床薬理学会・臨床薬理研究振興財団 学術奨励賞(研究奨励金300万円)」を、また『遺伝子発現制御因子によるうつ病プレジジョンメディシンを目指した臨床薬理研究』のテーマで「先進医薬研究振興財団 精神薬療分野研究助成(研究奨励金100万円)」を受賞しました。

### ■加藤准教授コメント

2つの研究助成を獲得し大変嬉しく感じると共に、どちらの研究にも共通するテーマである、精神科領域でのプレジジョンメディシンの確立を目指した本研究をこの1年間で大きく進める使命感に駆られております。その延長線上で近い将来、臨床で活用できるような基盤モデルを本学から世界に発信できればと考えております。これまで一緒に努力してきた、本講座の遺伝薬理、うつ病研究チーム他共同研究施設と共に頑張っていきたいと思っております。





本学完全監修 書籍刊行!

# 「実は危ないその症状 自分で探す病気のサイン」

好評発売中

在庫僅少

本学完全監修の書籍「自分で探す病気のサイン」を刊行しました。気になる症状から病気がわかる「疾患ナビ」を掲載。重大疾患、よくある疾患、意外な疾患など全68疾患の症状、原因、治療法について、本学在籍の現役医師が解説します。さらに、最新の医療現場がわかる「先端医療図鑑」や「大学病院の活用法」なども掲載。保存版の1冊です。

### 21症状掲載

全身がだるい／発熱が続く／体重の急な増減／体の一部、全身がむくむ／眠れない、寝付けない／頭が痛い／めまい・ふらつき／手足が動きにくい、歩きにくい／胸痛・動悸／咳・痰が止まらない／呼吸しにくい、息切れがする／吐きけ・嘔吐／お腹が痛い／便秘異常／腰や背中が痛む／血尿・頻尿、尿が出にくい／かゆみと発疹／ものが見えにくい、歪んで見える／耳・鼻・のどの症状／女性に特有の症状／子どもに特有の症状

毎日新聞出版 定価：本体1,080円（税込）  
各地の書店等でお求めいただけます。



## 関西医大 × りそな銀行 @ 枚方 T-SITE

本学監修書籍  
(上記参照)  
プレゼント

### 医療健康セミナー(無料)

いずれも  
午後2時～  
午後3時

第3回

1月20日(土) 「子どものアレルギーについて」

附属病院 小児科 畑埜 泰子 助教

第4回

2月17日(土) 「立つ・座る・歩くメカニズム」

附属病院 総合リハビリテーションセンター 長谷 公隆 センター長

第5回

3月31日(土) 「まさか認知症? 認知症の初期症状と治療」

附属病院 精神神経科 奥川 学 准教授

第6回

4月21日(土) 「乳がんは早期発見が大切ー マンモグラフィ検査のすすめ」

附属病院 乳腺外科 矢内 洋次 助教

※講演テーマ・講師は変更になる可能性があります。

- 会場：枚方 T-SITE 7 階りそな銀行枚方支店 りそなホール（京阪電車枚方市駅南口 直結徒歩約 1 分）申し込みただかなくても参加可能ですが事前申込の方を優先します。
- お申込み方法：右記 QR コード、または下記 URL からお申込みページへアクセス
- お申込みページ：<https://goo.gl/forms/wJNsvRfZaEIFQpS53>



2月17日(土)

## アレルギーに関する公開講座開催

無料

本学附属病院アレルギーセンターが初めて講座開催

日時	2月17日(土) 午後2時～4時【事前申込み不要】	
会場	関西医科大学附属病院 13階講堂（京阪電車枚方市駅徒歩3分）	
講演プログラム	「アトピー性皮膚炎を例に考える、ステロイド外用剤の使い方」	皮膚科学講座 神戸 直智 准教授
	「気管支喘息の診断とマネジメント」	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座 小林 良樹 講師
	「こどもの食物アレルギー」	小児科学講座 畑埜 泰子 助教

※会場および講演内容は、一部変更になる場合があります。



## 学会主催報告

2017年10月～12月、本学が主催および事務局を務めた主な学会を紹介します。

### 第67回日本泌尿器科学会中部総会

■会期 2017年11月24日～11月27日 ■場所 大阪国際会議場(グランキューブ大阪)

日本泌尿器科学会中部総会を主催いたしました。中部総会は、1966年に泌尿器科初代新谷裕教授が主催されて以来2回目51年ぶりの開催でした。この50年間の泌尿器科学の進歩を、サブスペシャリティごとに振り返りつつ、現在から未来へのさらなる発展を実感できるようなプログラム構成にいたしました。おかげさまで、過去最大の1,600名を超える参加者を得、盛大な会となりました。

【代表世話人／腎泌尿器外科学講座教授 松田 公志】



## 学会賞受賞情報

2017年10月～12月の学会賞受賞者を紹介します。

### ポール・ヤンセン賞

精神神経科学講座 加藤 正樹 准教授

- テーマ Non response at week 4 as clinically useful indicator for antidepressant combination in major depressive disorder. A sequential RCT Journal of Psychiatric Research 89 (2017) 97-104

■授与学会 臨床精神神経薬理学会



### EEG and Clinical Neuroscience Society young investigator award

精神神経科学講座 西田 圭一郎 講師

- テーマ Decreased negative emotion after single-session tDCS on F5 in patients suffering with depression

■授与学会 3rd International Conference on Basic and Clinical Multimodal Imaging.



### 優秀演題賞

小児科学講座 山内 壮作 助教

- テーマ 『ミゾリピンによる急性尿酸腎症にラスブリカーゼが有効であった微小変化型ネフローゼ症候群の1男児例』

■授与学会 第39回日本小児腎不全学会学術集会



### 第8回学会賞 (日本泌尿器内視鏡学会平成29年度)

腎泌尿器外科学講座 井上 貴昭 助教

- テーマ Wideband Doppler Ultrasound-Guided Mini-Endoscopic Combined Intrarenal Surgery for Large Renal Stones: Preliminary cases. Urology, 2016.

■授与学会 日本泌尿器内視鏡学会



### 優秀演題賞

整形外科科学講座 田口 周 任期付助教(専修医)

- テーマ 認知機能におけるMixed Reality技術を用いた数字抹消課題の効果

■授与学会 第1回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会



※所属講座は受賞当時

## 本学教職員編著作物紹介

2017年1月～2017年12月に発行された本学教職員編著作物を紹介します。 ※判明分のみ

### 「痛覚のふしぎ 脳で感知する痛みのメカニズム」

医化学講座 伊藤 誠二 教授 著

■出版 講談社 ■発行 2017年3月

### 「100症例に学ぶ小児診療」

小児科学講座 金子 一成 教授 監修

■出版 日経BP社 ■発行 2017年11月

### 「形成外科の手術看護パーフェクトマニュアル」

形成外科学講座 楠本 健司 教授 編集

■出版 メディカ出版 ■発行 2017年9月

### 「医療情報技師能力検定試験 過去問題・解説集2017」

日本医療情報学会医療情報技師育成部会

大学情報センター 仲野 俊成 准教授 他 編集・監修

■出版 南江堂 ■発行 2017年4月



## 教職員メディア情報

新聞・雑誌などの取材を受け記事が掲載された、あるいはテレビ・ラジオなどに出演した教職員ほかを紹介します。(主に平成29年10月1日～12月31日 ※判明分のみ)

眼科学講座 大中 誠之 講師	読売新聞 朝刊 (10月5日)	目を守るために知っておきたい目の病気について眼科専門医が語り合う眼科専門医協会企画に、大中講師が登場。目の仕組みや白内障手術の術後ケア、加齢黄斑変性の原因と治療法などについてのコメントが掲載されました。
附属病院高度救命救急センター 鉦方 安行 センター長	毎日新聞 朝刊 (10月15日)	「最期に「のぞみ」～救急医療の現場から～」をテーマに、大阪府医師会主催「第39回大阪の医療と福祉を考える公開討論会」が開かれ、鉦方センター長(救急医学講座教授)が中心となり、救急現場での延命治療において本人の意思に配慮しながら家族と治療方針を決める難しさなどについて議論されたことが紹介されました。
整形外科学講座 齋藤 貴徳 教授	関西医事新報 (10月20日)	齋藤教授のロングインタビューが掲載され、主宰講座と本学附属医療機関整形外科の展望や、自身が専門とする脊椎手術の低侵襲化、麻痺を残さないための手術支援技術開発について語った内容が紹介されました。
関西医科大学	毎日新聞 朝刊 (10月25日)	本学監修ムック「実は危ないその症状 自分で探す病気のサイン」発売にあたり10月24日(火)に開かれた記者会見が取り上げられ、附属病院澤田敏病院長(常務理事)、広報戦略室松田公志室長(腎泌尿器外科学講座教授)が出版の狙いなどを説明したことや、書籍の特徴などが紹介されました。
腎泌尿器外科学講座 滝澤 奈恵 研究医員	毎日放送ラジオ「かめばかむほど亀井希生です！」 (11月4日)	「ドクターM」のコーナーに滝澤研究医員が出演。「その高血圧、副腎腫瘍が原因かも？」と題し、何らかの病気によって引き起こされる「二次性高血圧」を取り上げ、原因となる病気の1つ、原発性アルドステロン症について検査や治療法を解説しました。
精神神経科学講座 奥川 学 准教授	読売テレビ「情報ライブ ミヤネ屋」 (11月7日)	以前自身が解説した連続殺人事件の刑事裁判で判決が下りたことを受け、奥川准教授がスタジオ出演。争点となった被告人の認知症の程度や診断方法について、キャスターからの問い掛けに答える形で解説しました。
関西医科大学	サンデー毎日 2017年11月19日号 (11月7日)	本学監修ムック本「実は危ないその症状 自分で探す病気のサイン」が取り上げられ、掲載内容や特徴、執筆者についての紹介、及び10月24日(火)に開かれた同ムック本発売に関する記者会見での附属病院澤田敏病院長(常務理事)のコメントが掲載されました。
総合医療センター 外科学講座 駒井 宏好 診療教授	朝日新聞 朝刊 (11月11日)	「続・元気のひけつ」コーナーで血管の老化が取り上げられ、関連する検査として総合医療センターが毎年市民向けに実施している「ABI検査」が紹介されました。また、血管の老化について、駒井診療教授の「50代以上で喫煙歴や糖尿病のある人はリスクが高い」とのコメントもあわせて掲載されました。
救急医学講座 鉦方 安行 教授	MBSラジオ (11月12日)	鉦方教授(附属病院高度救命救急センター長)がパネリストとして登壇した大阪府医師会主催「第39回大阪の医療と福祉を考える公開討論会「最期に「のぞみ」～救急医療の現場から～」(10月14日(土)開催)の模様が生放送されました。
救急医学講座 鉦方 安行 教授	毎日新聞 朝刊 (11月14日)	鉦方教授(附属病院高度救命救急センター長)がパネリストとして登壇した大阪府医師会主催「第39回大阪の医療と福祉を考える公開討論会「最期に「のぞみ」～救急医療の現場から～」(10月14日(土)開催)での、自身のコメントが紹介されました。
関西医科大学	産経新聞 朝刊、大阪日日新聞 (11月16日) 大阪建設工業新聞 (11月17日) AGORA (12月1日)	本学が平成30年4月に同時開設する看護学部・大学院看護学研究科について、11月15日(水)に実施した記者会見の様子が掲載され、新学部開設にあたり本学が目指す看護学教育の将来について語る、友田幸一学長のコメントなどが紹介されました。
形成外科学講座 森本 尚樹 准教授	NHK「おはよう日本」他 (11月18日)	森本准教授らのグループが、マウスを用いて、ほくろの元となる黒い色素をつくり出す母斑組織を壊すとよく似た症状が出る「膀胱がん」を取り上げ、早期に発見して早期に治療し、定期的な術後検査を受けることの大切さを解説しました。
腎泌尿器外科学講座 滝澤 奈恵 研究医員	毎日放送ラジオ「かめばかむほど亀井希生です！」 (11月18日)	「ドクターM」のコーナーに滝澤研究医員が出演。「その症状、本当に膀胱炎？」と題し、膀胱炎とよく似た症状が出る「膀胱がん」を取り上げ、早期に発見して早期に治療し、定期的な術後検査を受けることの大切さを解説しました。
形成外科学講座 覚道 奈津子 講師	読売新聞 朝刊 (11月19日)	覚道講師らが本学附属病院において取り組んでいる、乳がん手術で乳房を部分切除した人の脂肪幹細胞を使って乳房を再建する臨床研究が取り上げられ、「女性にとって精神的に大きな負担となる乳房の部分的な変形について、今回の再建手法で脂肪の生着率をあげられるかもしれない」との同講師のコメントが掲載されました。
総合医療センター 整形外科学講座 石原 昌幸 助教	日本経済新聞 朝刊 (11月27日)	「実力病院調査」企画で腰部脊柱管狭窄症が取り上げられ、総合医療センターが新しいタイプの薬で痛みを緩和するなどして患者さんの負担軽減を目指しており、「手術なし」症例が全国最多であることが紹介されました。また、同記事中で石原助教の「患者の負担を考えれば手術なしで治すのがベスト」などのコメントが掲載されました。
内科学第一講座 石井 一慶 診療部長	読売新聞 夕刊 (11月29日)	連載企画「医なび」において「壊死性リンパ節炎」の発症メカニズムや症状、治療法が取り上げられ、その中で石井診療教授(総合医療センター血液腫瘍内科診療部長)の「首のリンパ節が腫れ、抗生剤を飲んでも1週間以上高熱が下がらない時は、大病院などの血液内科を受診してください」とのコメントが紹介されました。
健康科学教室 木村 穰 教授	テレビ大阪「金曜報道スペシャル」 (12月1日)	現在、法的な規制がない電子タバコの健康被害を取り上げたコーナーにVTR出演し「何が入っているかの成分表示がないので、吸うことにリスクはある」とコメントしました。
内科学第二講座 野村 恵巳子 診療講師	読売新聞 朝刊 (12月3日)	「病院の実力(大阪編)」において、野村診療講師(内科学第二講座診療講師)が、糖尿病の症状や治療法、予防法を解説し、同センターでの治療の特色を紹介しました。また、あわせて附属病院、同センター、香里病棟の糖尿病治療実績が掲載されました。
公衆衛生学講座 三島 伸介 助教	読売テレビ「そこまで言って委員会NP」 (12月10日)	「ニッポンの医療スペシャル第3弾 名医たちが解き明かす“あのニュース”の真実」に渡航医学と熱帯感染症の専門家として出演。寄生虫や北朝鮮の衛生事情などについてコメントしました。
耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座 朝子 幹也 准教授	NHK Eテレ「きょうの健康」 (12月18日・19日)	「気になる鼻づまり」をテーマとした回で「慢性副鼻腔炎」が取り上げられ、朝子准教授が慢性副鼻腔炎の症状や特徴、原因から、2つのタイプとその診断方法、治療法について解説しました。
麻酔科学講座 中畑 克俊 講師	朝日放送「キャスト」 (12月20日)	無痛分娩の特集において、本学附属病院で中畑講師が中心となって、妊婦の麻酔に慣れた麻酔科医がチームを組んで無痛分娩を担当していることが取り上げられ、「麻酔についての知識や技術を習得している麻酔科医がいることで、トラブルが起こった時の対策や対処について非常に利点がある」との同講師のコメントが紹介されました。
内科学第一講座 宮良 高維 診療教授 (附属病院呼吸器・感染症内科科長)	毎日放送「医のココロ」 (12月30日)	「高齢者の感染症」にスポットを当てたシリーズ企画の中で「ノロウイルス」が取り上げられ、宮良教授が症状への対処法や感染予防法について解説しました。

※このコーナーは主要な放送局、新聞、雑誌の掲載情報が対象ですが、研究成果に関する記事は、その限りではありません。

## 編集後記

新年あけましておめでとうございます。今年はいよいよ、本学創立90周年。これから90年後、100年後の世界、そして関西医科大学はどのような姿になっているのでしょうか。思いをはせながら、千里の道も一歩から、一日一日を紡いでいきます。

また、広報誌では新たな企画にチャレンジしていければと考えております。お読みになってのご感想、ご意見などございましたら、ぜひお寄せください。(さ)

## 関西医科大学広報 Vol.40

発行 学校法人 関西医科大学

編集 広報戦略室

〒573-1010 大阪府枚方市新町2-5-1 TEL 072-804-0101(代表)

FAX 072-804-2547

http://www.kmu.ac.jp/

E-mail: kmuinfo@hirakata.kmu.ac.jp

平成30年1月31日(水)発行